



学校教育目標 ◎かしこく ◎なかよく ◎たくましく ◎心ゆたかに



夏休み ～ある少年の夏休みを振り返って～

校長 佐藤 信孝

今年の梅雨は、曇りや雨の日も多く、“梅雨らしい”ものでした。暑さへの心配をしているうちに、早いもので、1学期も終業式を迎えました。この1学期間、子どもたちは学習や運動、学校行事など、さまざまな場面で挑戦を重ね、子どもたち一人ひとりが着実に成長する姿を見せてくれました。1年生も学校での学習や生活の仕方にも慣れ、学習のルールが身についている児童が多いです。2年生から6年生も、全体として落ち着いてそれぞれの学習に取り組んでいました。特に5年生は館岩自然の教室を経て、大きく変化したことが、自己肯定感が、実施前が平均3.50（4点満点、以下同）から実施後3.79になるなどアンケート結果にも表れていました。

さて、いよいよ子どもたちが楽しみにしている夏休みが始まりますが、私自身の小学校の頃の夏休みを思い出してみると今の子どもたちとの違いの大きさに改めて気づきます。もちろん、40年という時間と、福島の子田舎で育った私と埼玉で暮らす子どもたちとは大きな違いはあるのですが。

私の小学校時代、まず、6時半のラジオ体操に参加することから1日が始まりました。そこで、参加した証のハンコをもらい帰宅します。10時までは学習の時間と学校の約束で決められていました。しかし、小学生のソフトボールが盛んな私の地区では、子供会の分団（これが登校班でした）ごとにまとめられたチーム、町内会のチーム、小学校が基盤の少年団と掛け持ちし、それぞれの大会に向け、午前中から練習をしていた記憶があります。夏休みは、学校のプールも分団ごとに順番で開放し、保護者の引率のもと楽しみました。6年生になると小学校主催の水泳大会や陸上大会の練習にも参加していました。学校や子供会等の練習がない時には、町にあった「子どもの村」という施設にもよく行きました。山か丘かわかりませんが、とにかく自転車では到底上れない坂の上にある施設で、ローラースケートや卓球、アスレチック遊具で楽しんでいました。海沿いの町だったので、海は日常的なものでしたが、お盆前までに海水浴場に行かないとクラゲが出てしまうので、夏休み前半が勝負です。夜には、町にあるいくつかの神社の夏祭りが楽しみでした。町の青年団が企画した地域おこしの祭りにもねぶたを押して参加しました。お盆の時期には青年団が「新盆（初盆）」を迎えた家をまわり、太鼓と鉦（かね）を鳴らしながら念仏を唱えて踊って供養する「じゃんがら念仏踊り」の後をついてまわっていました。結構ハードに過ごしていたと思いますし、たんまり出ていた夏休みの課題が後回しになったことも、我ながら納得できます。

近年は子どもたちを取り巻く環境も大きく変化しています。猛暑日が続くなど気象状況は年々厳しさを増し、午前中であっても屋外で自由に遊べる時間が限られることも少なくありません。また、共働き家庭の増加など、各ご家庭の生活スタイルも多様化し、夏休みの過ごし方にはさまざまな工夫が求められる時代になっています。多様化の時代、学校や町が用意した催し物に参加する“受け身”ではなく、子ども自身が「何になりたいか」「どうになりたいか」など、子ども一人ひとりの目標や“好き”にあった過ごし方をご家庭ごとに考える、計画することが大切になります。安全や健康を第一に考えながら、それぞれの家庭に合った充実した夏休みを過ごしていただきたいと思います。子どもたちが大人になって振り返ったとき、「あの夏休みは楽しかった」と思える経験は、子どもたちの心を豊かにし、生きる力につながっていきます。また、「毎日読書をする」「苦手なことに挑戦する」「家のお手伝いを続ける」「体力づくりをする」など、どんな小さな目標でも構いません。目標を決め、一日一日を積み重ねることで、自信や達成感が生まれます。その積み重ねは、2学期からの学校生活にもきっと生きてくることでしょう。

保護者の皆様には、引き続き熱中症対策や交通安全、水の事故防止など、夏季ならではの安全への配慮をお願いいたします。夏休みが、子どもたち一人ひとりにとって実り多く、笑顔あふれる日々となることを願っています。そして、2学期の始業式には、元気いっぱいの子どもたちと再会できることを、教職員一同、心より楽しみにしています。